

## 心肺蘇生の手順会得 六日市中生ら救命訓練



インストラクター（左）の指導で胸骨圧迫  
を実習する生徒

心肺蘇生法や自動体外式  
除細動器（AED）の使い  
方などを学ぶ救命訓練が27

吉賀

日、吉賀町六日市の益田広  
域消防署六日市分遣所で  
あり、近くの六日市中学校  
の1年生と教員計20人が、  
講習を通じて救急措置の

方法を会得した。昨年受講  
した同校の教諭が、4月に  
町内で開かれたマラソン  
大会で一時、心肺停止にな  
ったランナーを救ってお  
り、参加者が熱心に実習に  
励んだ。

医師や看護師、救急救命  
士が所属するNPO法人  
「六日市ECC協会」と六  
日市病院（吉賀町六日市）  
が2013年から町内の4  
中学校を対象に毎年実施。  
昨年受講した同校の教員  
が、今年4月のマラソン大  
会で走っている途中で倒れ  
込んだランナーに胸骨圧迫  
などの処置を施し、命を救  
うなど成果を上げている。  
参加者は、同協会のイン

ストラクターの指導で、1  
分間に100～120回の  
速さで胸骨を5センチの深さに  
押し込む胸骨圧迫や人工呼  
吸など救急措置の流れを確  
認した後、専用のマネキン  
を使い、胸骨圧迫と人工呼  
吸に取り組んだ。AEDの  
説明では、音声案内に従っ  
てマネキンに電極パッドを  
貼り付けるなどの操作手順  
を学んだ。

最後に到達度テストを受  
け、全員が修了証を受け取  
った。中村由起さん(12)は  
「一定のリズムで胸骨圧迫  
するのが難しかった。もし  
もの時は、今日学んだこと  
を生かして人を助けたい」  
と話した。  
(吉野仁士)